

# 運輸交通部会長報告

会議名 「港湾における外来トラック等の自動運転技術に関する実証事業」  
実証事業実施場所応募申請に関する説明会

日時 2021年7月12日（月）10：00～10：40

場所 秋田商工会議所 7階ホール80

主催 秋田県港湾空港課



出席者 部会員 9 名、秋田港振興会員 1 名、秋田県港湾労働組合協議会 1 名

議 事 (1) 港湾におけるトラック自動運転技術活用の安全性検証事業

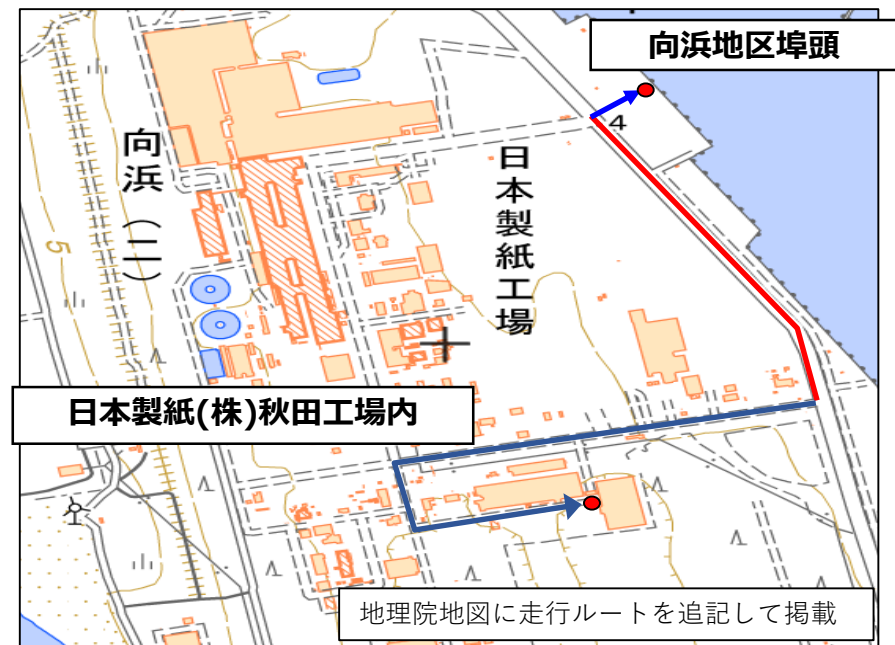
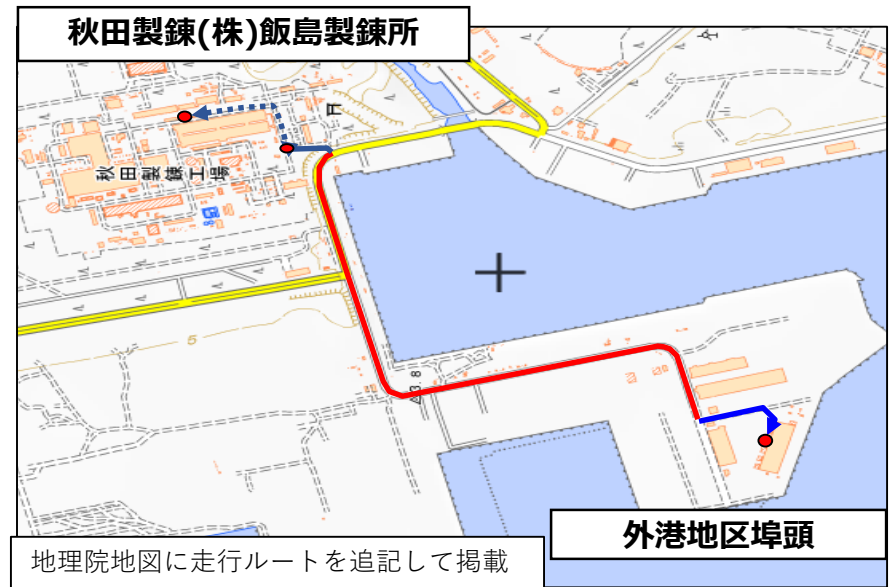
説明者 秋田県建設部港湾空港課 副主幹 加藤 徹

- ・ 秋田県におけるトラックドライバーは、高めの年齢構成であり、トレーラーは全てのドライバーが50～59歳となっている。また、ドライバー不足の状況として、秋田県は全国平均より高く、休日出勤や早出残業で対応している状況となっている。
- ・ 国交省で「港湾における外来トラック等の自動運転技術に関する実証事業」の公募を開始しており、県は秋田港を実証場所として申請したいと考えている。
- ・ 1年目にVRによる検証、2年目に実車による検証という流れを想定しており、ふ頭用地内・公道での走行可能性の検証および、日本海側港湾特有の冬季風浪下におけるGPS測位精度の検証も対象としている。
- ・ 2021年度はVRにより様々な気象条件を繰り返し再現し、運行上の安全基準を検証。2022年度は実車（自動運転レベル2※）による検証を行う予定。

※自動運転レベル2：高度な運転支援（ハンドルの操作、ブレーキやアクセルなど加減速の調整のどちらもサポートする技術が搭載された車）

# 秋田港におけるトラック自動運転技術活用の検討

- **実施予定地区①は外港地区。**  
外港地区埠頭から秋田製錬(株)飯島製錬所工場内まで運搬する行程で、外港地区埠頭内、臨港道路および県道、秋田製錬(株)工場内を走行するルート。
- **実施予定地区②は向浜地区。**  
向浜地区埠頭から日本製紙(株)秋田工場まで運搬する行程で、向浜埠頭内、臨港道路、日本製紙(株)工場内を走行するルート。



## 主な意見①

- ・ 自動運転はトラックドライバーの雇用に影響することが懸念され、賛成できない。
  - 「秋田の未来の物流を考える協議会」で検討を始めたように、高齢化が進む秋田県では、条件付き自動追従機能などの運転機能が搭載された車両を活用し、一人のドライバーで複数の車両をコントロールするなどの効率化を図る必要がある。 自動運転技術がトラックドライバーの雇用に圧迫する段階でなく、新技術導入を促進しなければ物流そのものに支障をきたし、産業基盤が他地域に移転してしまう恐れがある。  
将来的には、港湾区域での物流に対し、安全を確保しつつ限られたマンパワーの最適配置により、国際競争力の確保に努めたい。  
関係者全てに魅力ある港湾地域を作り上げることにより、集荷・創荷を行い、将来にわたる繁栄を目指したい。  
⇒そこまで考えているという今の説明を受けて、納得した。

## 主な意見②

- ・最終的な目標について、コンテナヤード内の完全自動化を目指したものであるか。それとも一般道で自動化させることが目的なのか。
  - 国土交通省の応募内容の通り、港湾の貨物ターミナルから荷主までの運転負荷軽減、安全性検証を目的に実施する。2年間の結果を踏まえ、県内に周知し、適用意向のある事業者に適用を促進していきたいと考えている。
  - 名古屋港の特定岸壁のように完全自動化することによりオンタイムでトレーラが入ってきて、待たないで降ろせることによって、車両が効率を上げ多くのコンテナを運搬することが出来るよう検討していきたい。
  - ⇒名古屋の当該岸壁は、1社の専用岸壁なので、荷主の車両の変更が一斉に出来る。秋田港は、公共岸壁でたくさんの荷主が活用していることから、荷主によっては、自動化によって不採算になることがある。

## 主な意見③

- ・ 実車での検証は2022年度からになるが、技術レベルが進歩した場合に、レベル2とは言わずに3に上げ、より高度な検証を進めていくという方針にしていきたい。
- ・ 現在、外港地区から秋田製錬(株)に運搬している複数の車両について、一人のトラックドライバーによる隊列走行が可能になれば、運転負荷軽減に繋がることになる。  
色々な実証実験を積み重ねることによって、最終的に目指す着地点を探すことに意義があると認識しているため、当実証実験を積極的に進めていきたい。